

重篤な心原性ショック患者に対する軸流式マイクロポンプ左室補助と 経皮的心肺補助との組み合わせ治療による左室負荷除去の治療的意義の検討

■ 研究の対象

2015年4月～2021年3月に当院でVA-ECMO+IABP治療またはECPELLA治療を受けられた方

■ 研究目的・方法

近年、心肺停止を含む重篤な心原性ショック患者に対して経皮的補助循環装置（VA-ECMO）による心肺蘇生および循環補助は有効な治療法ですが、救命率など治療後の患者さんの転帰には未だ改善の余地があります。

当院では、重篤な心原性ショック症例に対して早期からVA-ECMOに加えて順行性循環補助が可能なマイクロ軸流心臓ポンプ（インペラ®）を併用する治療法（ECPELLA）を導入してきました。ECPELLAによる循環補助は、全身の循環補助と同時に左心室の有意な前後負荷軽減による障害心筋の回復および冠血流の増加を期待できます。しかし、VA-ECMOとインペラ®という2種類の独立した循環補助装置を用いた詳細な循環管理法は未だ確立していません。本研究は、当院でのECPELLA治療を要した患者を対象にして血行動態管理の詳細と患者予後について検討することで本治療法の適応と最適な治療法を確立することを目的としています。

■ 研究実施期間

2020年6月17日～2024年5月31日

■ 研究に使用する情報

電子カルテに記載のある診療記録、検査データ：インペラ導入時期、退院時転帰、動静脈圧、心拍、心拍出量、左室駆出率、心室容積、尿量、心エコー画像、左室内圧など

■ 研究実施体制

この研究では日本アビオメッド株式会社より資金提供を含む研究支援を受けています。利益相反の状況は医療倫理委員会に報告し、審査を受けた上で適切に管理されています。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 集中治療室 鶴木 崇（研究責任者） 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
-----	--